

2019年度 保育専門講座Ⅰ
 子どもの心を育てる保育のために
 ～自己肯定感はどのように育まれるか～
 2019年6月14日（金）
 講師 鯨岡 峻先生

受講者アンケート

アンケート回収数 373枚

① あてはまる数字に○をつけてください

1、保育士・保育教諭	2、養成校学生	3、その他
344名 (内、2名は施設長と記されていた)	7名	14名 (園長・施設長 4) (栄養士 3) (看護師 1) (保育補助 1) (高校生 1) (詳細なし 4) (計 14)

無記入 8

② この講座を聴いてこれからの保育・教育に役立つヒントを見つけられましたか？
 最も高い状態を5とした場合、当てはまる数字に○をつけてください。

5	4	3	2	1	無記入
232 名	110 名	24 名	1 名	0 名	6 名

③ この講師の話から自分の保育をふりかえる視点を見つけることはできましたか？最も高い状態を5とした場合、当てはまる数字に○をつけてください。

5	4	3	2	1	無記入
246 名	97 名	21 名	2 名	0 名	7 名

④講座から心に残ったキーワードを記入してください

- ・「接面」(163)
- ・「自己肯定感」(47)
- ・「他者に自己を肯定してもらった経験から自己を肯定することが出来るようになる」(3)
- ・「抵抗に立ち上がる＝自己肯定感がある」
- ・「自己肯定感と他者への信頼は隣り合わせ」
- ・「子どもの自己肯定感と信頼感は大人の愛が大切」
- ・「自己肯定感はあるともないとも言えない心である」
- ・「褒められれば自己肯定感が育つわけではない」(3)
- ・「大人の愛で自己肯定感が育つ」
- ・「他者が自分を認めてくれる」
- ・「あなたは大事という大人の心」(2)
- ・「自己肯定感と自身は違う」
- ・「保育者が子どもを肯定する」
- ・「もっと愛されたいと子ども達は思っている」
- ・「自分が大事に思われていることの確信」
- ・「私は皆の中の私」
- ・「愛される」
- ・「自分は大事。大事にされていると意欲がわく」
- ・「子どもに愛を伝えることが大事」
- ・「自立心」(2)
- ・「信頼感信頼関係」(17)
- ・「子どもが先生を信頼している関係を信頼関係ということ」
- ・「子どもから先生、先生から子どもの信頼感が結びつくから信頼関係が出来る」
- ・「情動調律」(36)
- ・「大人がやわらかい情動をかもしだす」
- ・「心の調律」
- ・「主体としての心」
- ・「大人の心の動き」(6)
- ・「大人の心の動きが子どもの心を育てる」(12)
- ・「心の動きをキャッチすることが大切」(2)
- ・「心の動き」(4)
- ・「心の動きを感じとる」(2)
- ・「心を育てる」(14)
- ・「心を育てるということはどういうことなのか」
- ・「保育士が心を動かす」
- ・「全ての子どもに愛を。一人一人が大事」
- ・「心の土台の上に力が育つ 心は動く」
- ・「心 子どもの気持ち」
- ・「心の動きを直接感じたことが心を表している」

- ・「優しい心で包みこむ」
- ・「力を力を 心は扱いにくい 心は積み重ならない」
- ・「優しい気持ちを持つ」
- ・「一人一人を丁寧に」(4)
- ・「子どもに寄り添う」(2)
- ・「言葉を発していないのに伝わりあう」
- ・「子どもの気持ちをくみ取る」
- ・「遊んであげたから好きになるわけではない」
- ・「先生好き」
- ・「その人の人柄がにじみ出る対応」
- ・「子どもを前にしてマイナスの心が動いてはいけない」
- ・「子どもの存在を選ばない」
- ・「子どもの目」(3)
- ・「大人の目と子どもの目」
- ・「子どもの目と大人の目と第三の目 3つのバランスが大事」
- ・「振り返りの目」
- ・「子どもの目になって見る」
- ・「養護の働き」(8)
- ・「養護の働きと教育の働き」(6)
- ・「養護、教育のエピソードの場面」
- ・「十と一の心」(2)
- ・「正と負の心のバランス」(8)
- ・「負の気持ちに寄り添う」
- ・「二面二重の心のバランス」
- ・「表裏一体である」
- ・「15人の成功よりも出来ない5人の導きを大切に」(3)
- ・「大人の文化をどうやって子どもの中にうつし入れていくか」
- ・「直接的でなく」(2)
- ・「直球ではなく」
- ・「声が大きいつきは自分のペースでだけで保育しようとしている」
- ・「大人だからと居直ることが出来ないのが保育という仕事である」
- ・「子どもと保育者を分担して考えないこと」
- ・「願いを実現するのが教育」
- ・「どうしたの?の問いかけ」(2)
- ・「焼き鳥はいかが?」
- ・「よーし」
- ・「エピソード記述」(6)

④ 講座の感想がありましたらお聞かせください。

- ・自分の保育を振り返り見直すきっかけになりました。明日からの保育に生かしていきたい。(33)
- ・学びが深まり保育について深く考えることができ、大変参考になりました。ありがとうございました。(9)
- ・今まで心についてモヤモヤしていたことが、すっきりとした感じであった。ずっとぼんやりと感じていた悩みながらも考えていたことを言語化してもらったような、それでいいと補強してもらった感覚です。迷いながら保育していたことが解決し再確認でき、とても勉強になった。実践していきたい。(8)
- ・日々の保育の場面が思い浮かび、振り返るとハッとさせられたり、今の自分にとって刺激的な学びの内容が多かった。子ども一人一人を大切に思い、優しい気持ちを忘れずに保育していきたい。(7)
- ・日々の保育で本当に大切なことは何か、また明日からの保育で生かせる話を伺え、新しい学びをすることが出来ました。明日の保育につなげていきたい。(6)
- ・子どもの立場になって考え、一人一人が大事な子だよ、愛しているという気持ちをこめて保育することが大切なんだということを改めて感じた。(6)
- ・現場のエピソードを一つ一つ解説してくださり、子どもの気持ちや保育者の対応の仕方が身近で興味深くわかりやすかった。(5)
- ・日々の保育をもう一度振り返り、見直していきたい。一人一人と向き合い丁寧に接し寄り添っていきたい。(5)
- ・子どもの心を育てることについて今までにはなかった具体的なお話もあり、保育を振り返り反省する機会となりました。今後も子どもの心を育てる保育を実践していきたい。(4)
- ・講座を聞いて自分の普段の保育の振り返りをし、出来ていることと改善点が見えてきました。心の育ちを考えた時に、自分の声かけや関わりがとても大事になるので、改められるところは改め、今後気をつけて保育していきたい。(3)
- ・今まで自分が考えていたことや思っていたことと違う観点からの話だったように感じた。改めて知ること、理解することが多かった。(2)
- ・自園に戻り皆でより良い保育に努め、これからの保育を頑張りたい。(2)
- ・心は正負と2つが同時に存在するという当然のことを失念していた。大人主導にいたくなくても少しずつ寄っていていると感じたので、意識も変えたい。(2)
- ・心を育てる難しさを改めて感じた。最後のエピソードは今日の話がまとまっていてわかりやすかった。(2)
- ・見えない心を育てるのに保育者としてどう子どもと接していくのが必要かを考える機会になった。(2)
- ・全ての子どものことが大事で、全ての子どもを愛せる保育者になろうと思った。
- ・大好きだけど、自分も負の心が強く出てしまうこともあるので、もっと大好きを伝えていきたい。
- ・正の面、なって欲しい姿、理想の姿を伝えがち、求めがちであったとハッとさせられた。
- ・自分の保育を振り返り、どういう心の動きを自分がしているかということにも目を向けてみたい。
- ・身につまされる思いで時々苦笑いでしたが、今日の講座を頭に入れ明日からの保育に生かしていきたい。
- ・心の動きが大切なことがよくわかりました。自分保育にならないよう、子どもの動きや発信を見逃さず、小さなサインでも気づけるような保育士になりたい。
- ・心で保育をする大切さを感じた。
- ・「子どもの背後に立ち、子どもの目でその場面を見る」ということを改めて保育に生かしていきたい。
- ・言葉だけでなく視線や同じ空間を過ごす中で、子どもの気持ちを汲み取り、様々な方法を試しながら子どもと関わっていききたい。
- ・「子どもの目になって見る」が出来ない子が増えています。この大事さに気づける研修だった。
- ・一人一人に目を向けることの大事さを感じた。何年子どもと関わっても課題、反省ばかりです。
- ・普段子どもとの関わりの中で気持ちに寄り添うことを第一に考えるように心がけていますが、今回のお話を

聞いてまだまだだなあと実感した。今回学んだことを生かし、保育に努めていきたい。

- 自分の保育を振り返って「つもり」でいたことが多かったのだと感ずることが出来た。
- 保育という仕事のすばらしいところを気づかされた時間となりました。明日からの仕事の意欲につながった。
- 振り返りをしながら話を聞くことができた。勉強してきたことと話を聞いたことの違いに気づかされるところもあった。
- 難しい内容でしたが、自分の状況と重ね合わせていくことで理解できたように思う。
- 子ども主体の保育について考えさせられる講座でした。エピソードを聞いてみたい。
- 多くのクラスの子どもの心と気持ちを理解することは難しいが、努力していきたい。
- 子どもの気持ちをもっとわかってあげられる保育をしていきたいと思った。心の動きを自分自身育てていきたい。
- 責任ある仕事をしているということを改めて感じました。子どもを否定する心を持たないよう、努めていきたい。
- 保育者の心の動き、態度、姿勢は子どもに届くことを肝に銘じたい。
- 自分の中にスッと入り込む話で、とても自分の糧になりました。保育の中で心得ていきたい。
- 普段保育に関わる中で、子どもの姿に私はどうすればいいか、どう寄り添えばいいか、立ち返る時の道しるべになる講座だった。とても興味深かった。
- エピソードや図を用いた講座で、心についてわかりやすかった。今後の保育を見直すきっかけとなった。
- 聞きやすい声とリズムで内容も理論が新しい目線で捉えられて興味深かった。
- 穏やかな口調で、しみじみと聞かせていただいた。
- 聞いていて穏やかで温かい気分になった。優しく接しよう、理解しようという気持ちで子どもと関わりたいと思えるようになった。
- 鯨岡先生ご自身がやわらかいお人柄だと感じた。私も心がけます。
- 鯨岡先生のお話を今この時期にじかに聞くことができ良かった。(3)
- 心あたりのキーワードが多く、考えさせられた。(2)
- とても感動し、心が動かされる講演だった。レジュメもとても参考になった。(2)
- 「大人の心の動きが子どもの心を育てる」これを心に毎日がんばっていきたい。
- 自立心が前にくるのだろうか不思議という先生の言葉にそうだよなと感ずることが多かった。
- 長く保育をしてきたことで、私も子どもの心に寄り添うことができるようになってきたなと思いながら聞いた。若い先生方にも伝えたい。心のゆとりはまだないと思いますが、子どもが大好きという気持ちはたくさんある若者なので。
- 直球ではない様々な関わりの引き出しを今後も考え、より増やしていきたいと感ずた。(対子どもしかり、対大人しかり…)
- 直球でなく変化球。
- 子どもの気持ちの受け止め方に直接的でないものもあるのだなと感ずた。
- 漠然と捉えていてあいまいだった自己肯定感とは何か、私たちはどう保育していけばいいのかを具体的にとてもわかりやすく学ぶことができた。明日からすぐ実践していきたい。(3)
- 信頼関係や自己肯定感を持つことの大切さやどのようにして成り立っていくのかを知ることができてとても良かった。(2)
- 保育者が子どもを信頼することで子どもも関わりの中で信頼ができてくるのだと思った。また、子どもの心を読み取ることも大切だと感ずた。
- 自己肯定感、信頼感(関係)などの言葉や子どもの姿についての話を通して自分が関わった子どもとの関係や関わりについて自然と見直していた。これから考えが少しずつ変わる気がする。

- ・自己肯定感を育てるのはほめることではないと知ることができた。自己肯定感の育て方を知ることができ、とてもいい機会になった。(2)
- ・自己肯定感についてはここまで深いものだと考えさせられたのは今回がはじめてでした。自分自身の心の育ちもリンクさせながら講義を聞いた。明日からも更に一人一人の子どもとの接し方を丁寧にしていきたい。
- ・自己肯定感を育てていくのはとても難しいと思った。(2)
- ・自分の育ちや自己肯定感について考える良い機会になった。(4)
- ・他者への信頼感があってこそその自己肯定感であることを学んだ。
- ・自己肯定感はその人の気持ちだけでなく、保育者の子どもへの気持ちの向け方が大きく影響していることがわかった。
- ・自己肯定感を持つには他者がいないと(大人の場合)難しいのか、もう少しお話を聞きたかった。
- ・自己肯定感や自立心など自分が違った理解をしていたのに気づけた。
- ・自己肯定感の捉え方が変わりました。私自身は低いと思っていたのですが実際は周りの人たちのおかげである程度高いのかもしれないと感じた。
- ・自己肯定感の大事さは懇談会でも伝えていますが、より具体的な話ができると思う。
- ・乳児クラスの担任で、言葉で気持ちを伝えられない子どもたちの自己肯定感を育てていく関わりを意識して保育を行っていきたい。
- ・自己否定感を持つ子が増えないようにしっかりと保育を見直し、子どもの心の動きを敏感に察知したい。
- ・自分の保育と比べてみて不信感につながる関わりをしていたことが反省できた。自己肯定感を育てていけるような保育を心がけていきたい。
- ・自己肯定感や信頼関係の安易な考え方を学び、深い考え方が必要だと思った。また、先生が教えてくださった保育を日々したいと思っていますが、集団の中で一人で関わる時に余裕がなくなってしまう自分へのもどかしさを改めて感じた。
- ・自己肯定感を子どもに育てると共に職員(大人)にもなければいけないと思う。
- ・自己肯定感を育てる、接面等、無意識のうちに結果として子どもの姿、魂から育まれているのを感じています。無意識が明確になったような気がした。
- ・自己肯定感を信頼感の貨幣ではいつまでに表と裏ができるのか?一度固定したら変わらないのか、親の貨幣が与える影響など気になった。
- ・接面という話を初めて聞いたので、この事に対してもう少し詳しく話を聞きたい。
- ・接面についてよくわかるお話で良かった。明日からの保育が楽しみになった。
- ・接面の意識を持っていき、保育の中で子どもたちの思いを受け止め、接面につなげていけたらと思う。(4)
- ・自分の保育の振り返りができた。自分も接面だったなと思うところもあり、今後の保育をより子どもに目を向けたものにしていきたい。
- ・正論、思いを伝えることが保育者中心ということがよく理解できた。「子ども中心」というあり方を心から意識したいと感じた。
- ・初めて情動調律という言葉聞き、忙しいとどうしても子どもの気持ちに寄り添えないことがあるので、今後は気をつけながら保育したい。
- ・一人一人の子どもを育むための大切な視点があった。紹介にあった本はぜひ読みたい。また園でも他の職員に今日の内容を伝えたい。(2)
- ・本を購入してじっくり読み、エピソード記録について学び、記述して自分の保育を振り返りながら子どもの成長を見守っていきたい。(5)
- ・目に見えないものが多く、難しいことを改めて感じた。何度も読み自分のものにしたかった。
- ・エピソード記述を気になる子の場面で書き、担任間で子どもの理解につなげていきたい。

- エピソードの記録、描写の仕方、わかってもらいたいポイント、書く記録のあり方について学びたい。
- 日誌に保育士と書いてしまうと聞いて私自身そうだなと思った。
- 本来の信頼関係の意味を知ることができました。今後保育計画をたてる際に意識していきたい。
- 改めて指針を捉えていきたい。
- 日々の保育に追われて本当は大切なことを忘れかけていた。忙しく余裕のない日々ですが、子どもたちの気持ちに寄り添い、明日からの子どもたちとの関わりを大切にしたい。(4)
- 今までの自分の保育の中で子どもの気持ちに寄り添えず理解できていなかった部分を反省すると共にどんな保育を目指すべきかがわかる講座だった。(3)
- 自分の保育の欠点、反省(簡単に言葉で片付けてしまっているなど)を見つけることができた。(3)
- 自分自身がいっぱいいっぱいになってしまうことが多いため、改めて見つめ直し保育に生かしていきたい。
- 日々の自分の保育を振り返り、情けなく感じた。忙しさに追われ、時間に追われ、忘れていたことがたくさんあった。
- 子どもの気持ちに寄り添った関わり方はとても大切なことだと思いますが、まずは保育者自身に心の余裕があることも大切だと思った。
- 自分の子ども(中学生)にもあてはまって心にささった。私の気持ちが変わり今後の意識が変化した。
- 母として保育士として深くささるお言葉ばかりで良い時間でした。仕事だけでなく育児の参考にもなった。自分自身、友人についても考えさせられた。(3)
- 「力を力を」の保育に疑問を感じていたので、自分の保育に少し自信が持てそうです。
- 「子どもの心に寄り添う」ことを大事にしたいと思って働き始め、年数を重ねるうちに「まとめる」ことに目がいきすぎ、子どもが自ら「まとまっていく」ことを忘れてしまっていたことを思い出した。まとめるのが苦手と思っていましたが、「心に添う」ことを大事にしていきたい。
- 講義を聞きながら今日の自分の言動、保育を振り返る中で反省しか出なかったため、子どもに対して申し訳ない気持ちになった。
- 早く結論を出したくて、子どもに何かを言わせるという場面(言わせようとする対応)は多々あったかと思う。もっと個人的な子どもとのやりとりに視点をあてたことを伝えていきたい。
- 最近保育中声を大きく出すことが多く、悩みでした。子どもの気持ちを分かたり、理解したように思っていたところがあったのだと感じた。「やらなきゃ、やらせなきゃ」「今は何の時間」だけでなく、少しゆったり考えて子どもと向き合っていきたい。
- こう保育するべきであるということは分かります。でもこの忙しい保育の中でどうしたら一人一人と丁寧に聞かれるか正論を伝えているという感じがした。忙しい保育の中でどうしたら一人一人と丁寧に聞かれるかを教えて欲しかった。
- 心に響く講義であったが、自分に余裕がある、ひいては園の保育に余裕がなければ難しいものでもあると感じた。
- エピソードを見て今私のクラス(3歳)であるなと感じたので関わり方を改めて考えたい。
- 大人になっても思い当たるところがたくさんあった。
- 仕事をやめたいと思っていたが、保育士としてまた頑張っていきたい。
- 今管理職の立場ですが、ぜひこれからの若い保育士に伝えていき、みんながあたりかな保育をしていける保育園になればいいと思う。
- 今日の講座を聞き、早く大学生になり、保育の勉強をしたい。